

electro-harmonix

VOICE BOX

自分の声でコードを奏でるマジックボックス

「最近ヴォコーダーがはやってますからねえ」とは、つい先日仕事で一緒にスタジオのつがやき。確かに、現在大ブレイク中のPerfumeは語るまでもなく、本質的には異なるが初音ミクなども、ヴォコーダー的ロボットヴォイスとして注目を集めている昨今です。今回レビューするのはヴォコーダー機能とインテリジェント・ハーモナイザー機能を搭載したelectro-harmonix Voice Boxです。クールで小型なスチールボックスの筐体で、エフェクターやシンセサイザーなど数々の人気マシンを発表してきたelectro-harmonix社。今回もまた、実に興味をそそられるデザインでのリリースです。(文：犬山博和)

Voice Box 注目のポイント

Voice Box注目のポイントは2つあります。まずはインテリジェント・ヴォーカル・ハーモニー機能。一般的にはインテリジェント・ハーモナイザーとも呼ばれるこの機能は、入力した自分の声に2~4パートのハーモニーを自動的に加える機能です。ギターやキーボード等、INST入力に接続した楽器からキーを自動で読み取り、メジャーやマイナーなど、常にコードに正確なハーモニーを生み出すことが可能です。

それからヴォコーダー機能。PerfumeやDuft Punkの「one more time」など、無機質なロボットヴォイスが甘く切ないメロを歌い上げる様は、正にヴォコーダーの真骨頂です。

他にも気になる機能をたくさん搭載したVoice Boxは、その小さなボディに魅力が圧縮されているのです。

Voice Boxを使ってみる

セッティング

まずはelectro-harmonixの本国サイトにあるプロモーション動画を見ることから始めて、筆者自身のテンションをマックスへ持って行きます(この動画、サウンドが非常にカッコよく、そしてVoice Boxの特長も分かりやすく解説しているので皆さんも是非ご覧ください)。

<http://www.ehx.com/products/voice-box>

この動画を見ると、取説はもうほとんど必要なくなります。念のために各2系統ずつあるインプットとアウトプットの接続方法だけを確認しました(写真1)(写真2)、インプットにはファンタム電源も内蔵されているのでコンデンサーマイクも接続できるのですが、今回は超王道のSHURE SM58をチョイス。よりライブ指向なセッティングでサウンドチェックに望みます。

ハーモニー・モード

Voice Box最大の魅力であるインテリジェント・ヴォーカル・ハーモニー機能は、搭載された9つのモードのうち6つで使用されています。3度下と5度下を生成可能なLow Harmony、3度上と5度上のHigh Harmony、3度下と3度上のLow+High、3度下と5度下と3度上の3ハーモニーから成るMulti Harmony1、3度下と5度



写真1 中央XLRインにマイク、左1/4フォーン・インにシンセサイザーやギターなどの楽器を接続。右はファンタム電源のON/OFFスイッチである



写真2 左XLRアウトからはXLRインのマイクより入力された声が加工されたロボットボイスが出力される。右1/4フォーン・アウトからは、1/4フォーン・インに接続されたシンセサイザーやギターなどの音がダイレクトに出力される

下と3度上と1オクターブ上のハーモニーを生成可能なMulti Harmony2、そしてオクターブ下と5度下と3度上と5度上のMulti Harmony3という豊かなバリエーションで、ユーザーの様々な欲望にも細かく応えることが可能です(写真3)。

さて、それでは実際にシンセサイザーで奏でたコードを入力しながらマイクで歌ってみましょう。楽器のコードはルートと3度と5度が含まれた演奏をする必要があることなので、比較的オーソドックスなコー

ドワークを意識しつつシンセサイザーを演奏...するとどうでしょう、メジャーコードにもマイナーコードにもしっかりと追従し、不協からくる濁りのない、見事なインテリジェント・ヴォーカル・ハーモニーが得られました。もちろん、アカベラの楽曲のような生々しく重厚なハーモニーとは路線が異なりますが(と言うか、生々しさが欲しければ全て生声でレコーディングしましょう)。Voice Boxから得られる斬新でヴィヴィッドなハーモニーを聞けば、「あ、これが欲しかったんだ!」と思われる方は多いはず。サウンドキャラクターの変更も、シンプルかつツボを押さえたパラメーターでスピーディーに行えます(写真4)。



写真3 9モード



写真4 パラメーター

BLEND ノブ

ドライの生声とVoice Boxが生成したハーモニーの出力割合を調整します。ガッツリとハーモニーをのせるのか、あるいは薄めに被せていくのかをここで決定します。

GENDER BENDER

ハーモニー音のフォルマントを調整します。フォルマントとは、大まかに（結果的に）言えば音色のこと。このGENDER BENDERノブでハーモニー部分のフォルマントを増減させることができます。一般的にフォルマントを下向きにシフトさせると長い声道を持つ男性ヴォイス、上向きにシフトさせると女性ヴォイスとなり、GENDER BENDERの調整がハーモニーの音色を決定します。

VOICE MIX

ハーモニーを構成する3度や5度、オクターブといった要素それぞれの出力割合をコントロールします。ハーモニーの表情や厚みなどに関係してくる重要なパラメーターです。

リバーブ

リバーブパラメーターが2つあるということは、安易に考えればDRY/WETとリバーブタイムの2つであろうと推測してしまいます。しかしVoice Boxでは「生声にかかるリバーブの量とハーモニー部分にかかるリバーブの量」という驚くほどシンプルで潔いアサイン。「それだけでリバーブを決めて平気なのか？」と心配に思われる方の気持ちもお察しますが問題はありません。

例えば「生声にはたっぷり、生成されたハーモニー部分には薄めのリバーブをかけて、ハーモニーの濁りが出ない程度にウェットなサウンドメイキング」など、上手く利用すればかなり繊細な調整もできる訳です。音の陰影やメリハリを繊細にコントロールした立派なリバーブ処理も、Voice Boxの内部で完結できるのです。

それぞれのモードに対して各1つずつのプリセットを記憶できる機能に加えて、それらをギターエフェクターと同じフットスイッチで呼び出せるという、ライブパフォーマンスでの利用も前提にしているVoice Box。「シンガーが突然ステージ上で、ギターを掻き鳴らしながら一人大合唱をする」なんていう演出があっても面白いのではないのでしょうか。

ヴォコーダー・モード

256バンドヴォコーダーとして動作するこのモードでは、人間と楽器の声を融合させて特徴的かつ斬新なサウンドを作成できます。INSTインから入力された楽器などのサウンドソースを、MICインから入力される声でモジュレートするという仕組みのヴォコーダーでは、サウンドソースの音色次第でヴォコーダーのサウンドキャラクターが大きく左右されます。ある意味では、フォルマントなどのマシン・パラメーターよりも深いレベルで、ソースとなる楽器のキャラクターが出音に反映されていると言えるでしょう。

ヴォコーダーではソースとなる楽器の音色選びがサウンドメイキングのコツとなります。例えば派手でタイトなニュアンスのヴォコーダーサウンドには強くディストーションされたオルガンがソースとして適していますし、明るくて抑揚のあるサウンドにはプラス系、柔らかく包み込むようなサウンドには立ち上がりの速いストリングス、丸く無機質なサウンドにはサイン波に近いクリーンなオルガンなどがソースとして向いています。総じて「分かりやすいヴォコーダーサウンドを奏でる」という意味では、基本的にアタックが早めの持続音が適していると言えるでしょう。このような傾向を踏まえた上でVoice Boxに触れば、目的のサウンドヘスピーディーに近づけるのではないかと思います。



electro-harmonix
VOICE BOX

価格：4万4,100円

日本エレクトロ・ハーモニクス

Tel : 03-3232-7601

<http://www.electroharmonix.co.jp/>

ヴォコーダー・モードでの各ノブの動きは、ハーモニー・モードとは多少異なります。

GENDER BENDER

ヴォコーダー・エフェクトのフォルマントをコントロールします。12時地点を中心に、右回りで上向きにフォルマントがシフトし、より女性的なキャラクターへと近づきます。逆に左回りでは下向きにシフトし、サウンドがより男性的に変化します。

VOICE MIX

最小から12時まで、ノブを回すほどに高域が上がります。また、12時より上ではオクターブ・ハーモニックを強調します。ハーモニック部分が増すことで、ヴォーカルのシビランスレンジ（サシセソなどの歯擦音）を強調することができます。

BLEND リバーブ

基本的にハーモニー・モードと同様の動きです。

しかし考えてみると、ヴォコーダーは8年～10年のサイクルで流行を繰り返している印象があります。これは別の言い方をすれば、ヴォコーダーの音がそれだけ魅力的であるということ。サウンドクリエイターの必殺技...ヴォコーダーサウンドは、このVoice Boxでパーフェクトに得ることができるでしょう。

オクターブ・モード

Voice Boxがオリジナル・ヴォイスに1オクターブ上と1オクターブ下のパートを加えます。このモードではMICインから入力される声だけで効果が得られるので、ソースやガイドとして楽器の音を別途入力する必要がありません。実に手軽にアニメキャラクター的なヴォイス・サウンドが得られるのです。

GENDER BENDER

右回りに上げていくに従って1オクターブ下のフォルマントを下向きにシフトし、声質をより男性的に変えます。同時に1オクターブ上のフォルマントを上向きにシフトし、声質をより女性的に変えます。

VOICE MIX

12時地点で1オクターブ上と1オクターブ下の出力バランスが等しくなり、左回りで1オクターブ下の、右回りで1オクターブ上の出力が強くなります。

BLEND リバーブ

基本的にハーモニー・モードと同様の動きです。

何歳になっても、この手のエフェクトは楽しめるものですね。仕事を忘れてお気に入りのゲームキャラの声を懸命に真似しようとしている我に気付き、思わずハッとしてしまいます。

ユニゾン+ホイッスル・モード

このモードでは、ユニゾン・モードとホイッスル・モードの2モードが利用可能です。ユニゾン・モードではピッチを変えずにフォルマントだけをシフトすることができるので、声質だけを男性や女性に変えられます。一方のホイッスル・モードでは、入力の声に対して2オクターブ上のホイッスルトーン（口笛サウンド）を生成します。

VOICE MIX

左回りでユニゾン・エフェクト、右回りでホイッスル・エフェクトの出力が増大します。12時地点では両者の出力バランスが等しくなります。

GENDER BENDER

ユニゾン・エフェクトのフォルマントをコントロールします。12時地点でフォルマントのシフトはゼロ。右回りに上げていくに従ってフォルマントを上向きにシフトし、声質をより女性的に変えます。逆に左回りに下げていくに従ってフォルマントを下向きにシフトし、声質をより男性的に変えます。

BLEND リバーブ

基本的にハーモニー・モードと同様の動きです。

このモードもオクターブ・モードと同様、ソースやガイドとなる楽器入力を必要としません。とてもお手軽にエフェクトヴォイスを楽しめます。特にホイッスル・モードのサウンドにはテルミンのような無機質な哀愁があり、テルミン・フリークの筆者も、ついつい聞き入ってしまいました。

この手のマシンは、いくら性能が高くても、それだけではユーザーの満足を得ることはできません。匂い立つほどの独特なサウンドキャラクターと、マシンな魂に杭を打ち込まれるようなルックスが備わってこそ、ユーザーの創作意欲と満腹中枢を刺激するのです。electro-harmonix Voice Boxが奏でるサウンドの面白さ、そして純粋なアイテムとしての魅力は、きっと皆さんのセンサーに触れることでしょう。「あと1つ、何かが足りない」と感じているならば、このVoice Boxを是非ともお試しください。